

週報

こひつじ

第39巻 40号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

居場所を求めて

あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。(ヨハネ一四の一、二)

その一 父の家には住まいがたくさんある

子どもが幼稚園に入る。すると 何と慰めに満ちた言葉だろう。親は心配する。わが子はそこに自分たちに必要なのは自分を受け入れることができる広い場所なのだ。私は高校時代を寮で過ごした。

子どもだけではなく。人はだれ寮のご飯はいつも茶碗に一杯きりも、家庭や学校、職場で自分の居である。おかわりはない。だから場所さがしに苦労しているのではいつも空腹だった。おなかいっぱい食べられたらなあ。それは寮生

そんな私たちの悩みを知って、みなお願いだったろう。イエスは言われた。 やがて夏休みが来て家に帰る。

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります」 「さあ、食べる、食べる。好きな

だけ食べる」

それがしばらくぶりに帰ってきた息子への、父の歓迎の挨拶だったのだろう。わたしには、そんな父がとても頼もしく思われた。

何よりそのおおらかさ、ゆとりがうれしかった。私には、広い場所が必要だったのだ。

ヨセフの物語はご存じだろう。カナンの地を襲った飢饉でヤコブとその子らが滅亡の危機にあつたとき、エジプトに食物があると

聞いて、それをかうために彼ら

そこへゆくと、なんと自分たちが

いじめ、エジプトに売り飛ばした

弟のヨセフがエジプトの総理大臣

になっていたのである。

ヨセフは兄たちをゆるし、豊かに地エジプトに移住するように招く。王も、歓迎してこう言う。

「家財に未練を残してはならない。エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから」(創世記四五の二〇)

歓迎してくれる場所のあるのを

知って、ヨセフの兄弟たちはどんなに慰められたことだろう。ずいぶん前のことだが、私も場

所を備えるために労したことがある。

長男と長女の家族がそれぞれ東京から、アメリカからやって来てわが家に集合したときのことだ。

最初の日は、大きな車を借りて全員で雲仙のホテルに泊まることになっていった。

空港に長男家族を迎えにゆくと、四歳になる孫娘の那穂が言う。

「早くおじいちゃんの家

にゆきたいな」

「おじいちゃんの家はあしただよ。そこには那穂の部屋もあるよ。君のパパが使っていた部屋を、おじ

いちゃん

がきれいにペンキを塗って、明るい部屋にしたよ」

「くまのプーさんがいるの？」

「ああ、いるよ。ピーターラビットもいるよ。絵本もたくさんあるよ」

そばでそれを聞いていた妻が言った。

「今からそんなに宣伝したら、あとでがっかりするわよ」

が飾ってある。

「どうだい、これが君の部屋だよ。」

「気に入ったかい？」

彼女は自分のイスに腰掛け、机の上に置いてある「くまのプーさん」を見ながら、満足そうに言った。

「いい。とてもいい。」

今度は外に出て教会の建物を見上げた。建物が大きいのに驚いて、

「これみんなおじいちゃんの家？」

と彼女が聞くので、母親のナオルさんが答えた。

「ここは教会なのよ。だから大きいのよ。」

次に教会の花壇の花を見て、ひとつひとつ指さして言う。

「これはおじいちゃんの花？これもおじいちゃんの花？」

妻が答えた。

「みんなの花よ。」

でも「みんな」という言葉が彼女には通じない。ここが教会である建物だというのが四歳の彼女にまだわからないのだ。

庭には花壇があり、遊具がある。児童館にはいると、絵本がいっぱい

いの図書室がある。彼女は鮮烈な印象を受けたのだろう。

「あした帰るなんていやだ。もっといいの。」

と言いつつ張ったが、「また来るから」と両親になだめられながら、翌日、しぶしぶと東京へ帰って行った。

家族がそろって雲仙に行き、船やロープウェイに乗り、おいしいものもたくさん食べたはずなのに、

「何がいちばん楽しかった？」と聞くと、彼女は間髪を入れずに答えたそう。

「おじいちゃんの家、それと那穂の部屋。」

私はそれを聞いて、思い切った壁を塗り替え、子どもの部屋らしく飾っておいてよかったです。

四歳の子どもでも自分の部屋があるのは、自分が尊重されているよ

うでうれしかったのだろう。しかし、イエスが私たちのために備えてくださったっている場所は、

むろん、そんなものより、はるか

にすばらしいものなのだ。(続)

今日の礼拝

第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。

教会学校は午前10時から。

説教は、米村牧師。

先週の礼拝

司会は西岡潤也さん、奏楽は西岡なおみさん。

説教では、日野キリスト教会(東京)の岩崎義幸牧師が正直なご自分の証を語ってくださいました。

たいへん感動的で、神がご自分の器をどのように訓練し、用いられるかを、岩崎さんの証を通して見せていただきました。

一〇月八日(日)午後から始まったキャンプは、約三〇人ほどの参加で、温泉、バーベキュー、夜の集会和続きました。岩崎牧師は、主とともに歩むには、ダニエルのように、よい習慣を身につけることが大切で、彼は、何が自分に起こっても、日に三度、神に祈ることだけはやめなかった。その習慣が、彼の強さだったのでないかと語ってくださいました。

翌日は、参加者は感想文を書き、そのあと、ゲストの岩崎牧師をみんなで黒川温泉に案内しました。

今回のキャンプは四年ぶりでしたが、すべて若い方がたが計画し、準備し、とても充実したものでしたと思えます。ほんとうにご苦労様でした。

先週の出席

第一礼拝が三三名、第二が三八名、合計七一名(男二六、女四五)

子ども七名。合わせて七八名。

ユースキャンプ

牧師のメールアドレス。 yonemura@ja2.so-net.ne.jp